

津別町における 森林由来Jークレジットの 取り組みについて

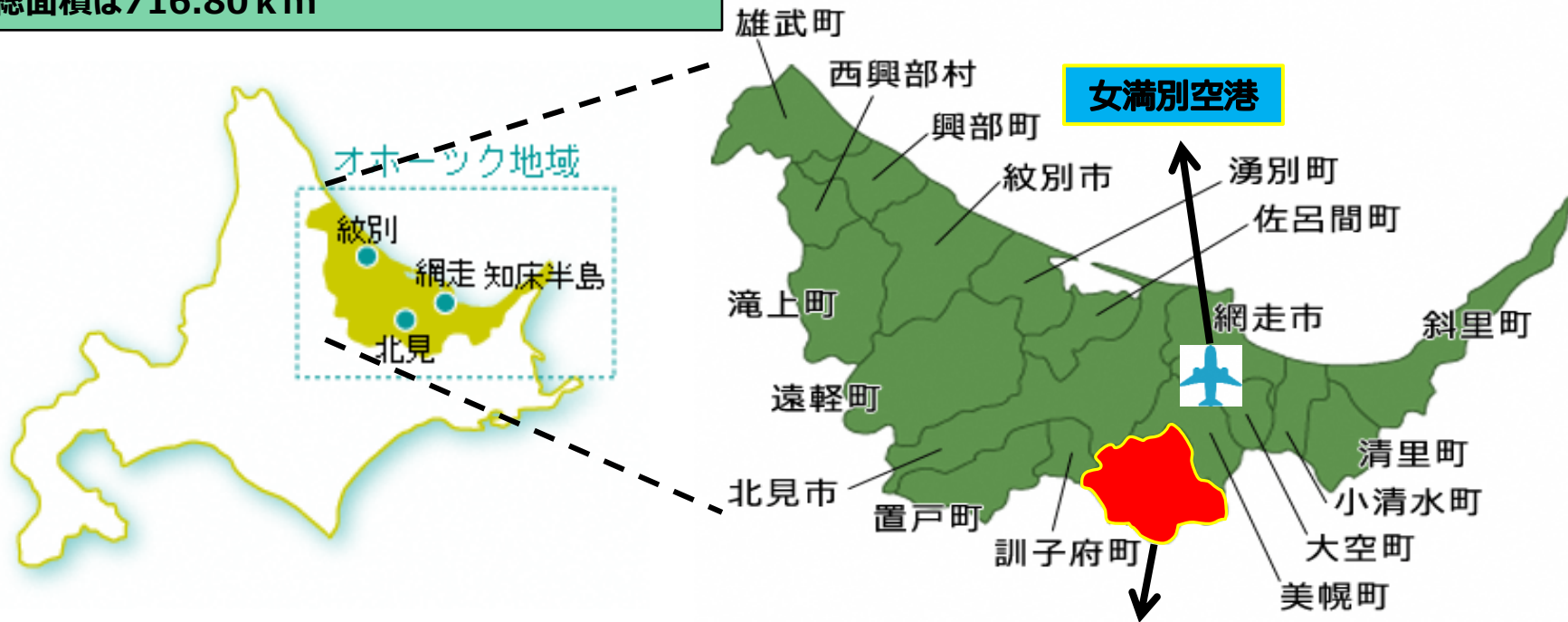
令和8年3月18日(水)





はじめに 津別町の概要

オホーツク海に面するオホーツク総合振興局管内の南部に位置し総面積は716.80 km²



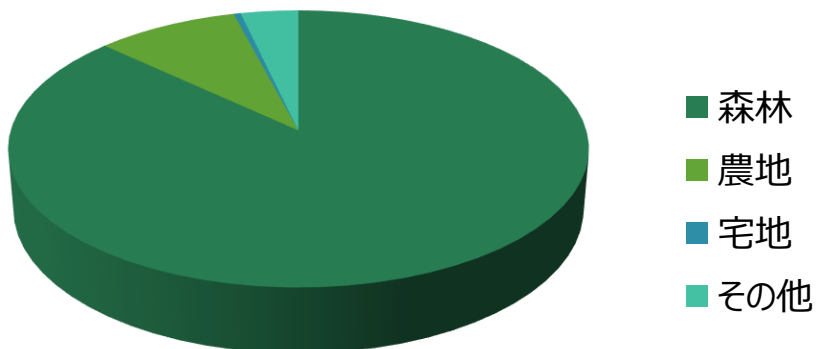
《 アクセス 》

- 飛行機 東京（羽田）－女満別（約1時間50分）
札幌（新千歳）－女満別（約45分）
- JR・バス 札幌－北見（約5時間）
- 自動車 女満別空港、北見から約30分
網走から約50分

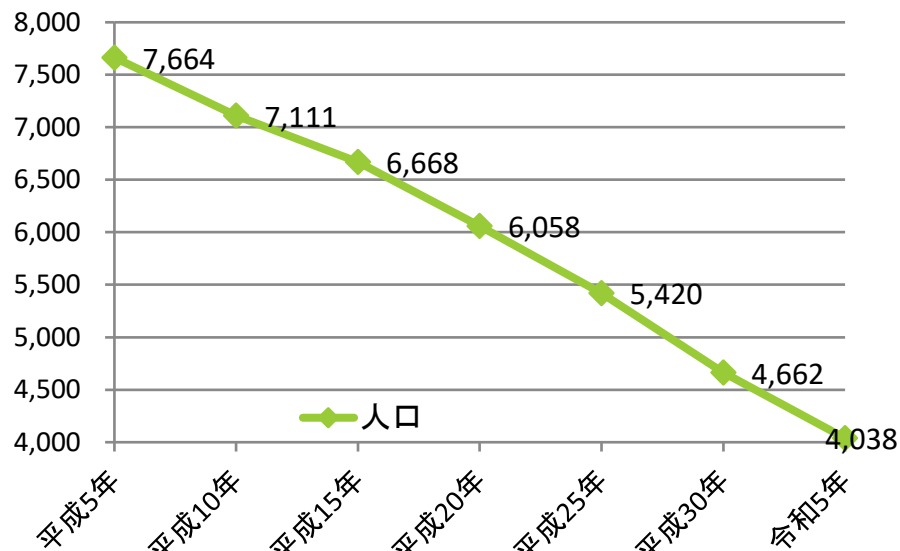


はじめに 津別町の概要

面積



人口推移



地目	森林	農地	宅地	その他	合計
面積(km ²)	622.66	63.93	2.71	27.5	716.80
比率(%)	87	8.9	0.4	3.7	100

- 総面積の約**87%**を森林が占め、林業・林産業が町の基幹産業を形成
- 農業は畑作・野菜・酪農・畜産があり、近年では、有機農業や特別栽培（減肥・減農薬）による馬鈴薯・玉葱等の野菜生産のほか、日本初の有機畜産物JAS規格認証を取得した「**オーガニック牛乳**」を生産し、循環型農業を実践



- 人口ピーク 昭和35年：**15,676人**
⇒（現在）令和8年2月：**3,871人**
- 高齢化率 令和8年2月：**45.39%**

【観光資源】

- 木と触れ合う 木材工芸館・森林学習館 ほか
- 自然と触れ合う 津別峠・チミック湖・ミズナラの巨木・森林セラピー基地
- スイーツ 「クマヤキ」





津別町有林について

- ◆ 森林面積1353.38ha(自己所有1328.15ha・分収林(道・国)25.23ha)
- ◆ 大正13年より国有未開地売払事業等により山林を取得
- ◆ 昭和29年より本格的な森林施業を実施
- ◆ 津別町有林野条例に基づき5年を1期とする「津別町森林施業計画」を策定。
- ◆ 現在15次計画(R6.4～R11.3)
- ◆ 成熟したカラマツ林を中心に毎年主伐。輪伐体系の確立を目指す





過去の取組（津別町のJ-VER紹介）

◆プロジェクト名

「北海道津別町による町有林内における間伐推進を
図りながらの森林CO₂吸収促進事業」

- ・北海道津別町有林において実施される森林施業によって、健全な森林育成を図るとともに、持続的なCO₂吸収の量を維持していくことが目的。森林吸収量をクレジット（J-VER）として売却し、得られた資金を森林の管理費用とし、地域活性化にも活用する。

◆クレジット発行量

4, 693t-CO₂

◆クレジット販売価格

11, 000円/t-CO₂（税込）





過去の取組(津別町のJ-VER紹介)

◆クレジット購入特典

◆ 感謝状の贈呈(令和2年度からは購入量に応じて経木の証明書へ移行)

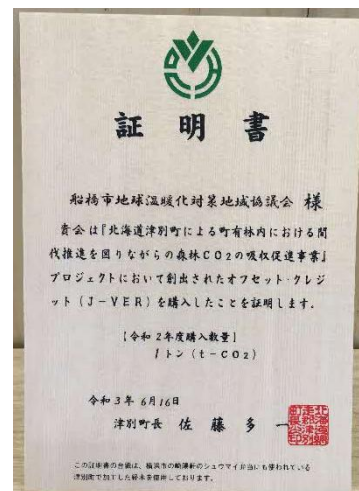
- ・J-VERの購入は本町の森林づくりに貢献することであり、このことに感謝の意を表し、町長より感謝状・証明書を贈呈しています。
- ・感謝状・証明書は町内業者により加工された木で制作されています。



令和6年度 感謝状贈呈式にて



感謝状



証明書



過去の取組（津別町のJ-VER紹介）

◆クレジット購入特典

◆ J-VER購入者森林づくり体験

- ・本町J-VER購入者に対し、ご要望に応じて町有林の植樹及び育樹等の体験を提供しました。

H27森林づくり体験



枝打ち体験の様子





J-VER発行の経緯

- ◆ 丸玉産業(現:丸玉木材)がバイオマスコージェネの取り組み
 - SONYへクリーン電力販売
 - 町への寄付金(丸玉木材森づくり基金)の財源
- ◆ 当時の産業課長が森林の間伐によるCO2削減量のクレジット化に関する情報を収集
 - 町有林:森林施業計画による継続的な間伐を実施
 - 森林施業の財源への活用
- ◆ 経済産業省のソフト事業補助100万円(当時)を活用
 - 資源量調査・クレジット化申請の委託

→ オフセットクレジット(J-VER)制度に基づく
温室効果ガス吸収プロジェクト計画書提出
(2010. 11)



J-VER発行について

- ◆平成22年度からJ-VER創出に向けて事業を開始
- ◆町有林約203ヘクタール分が対象
- ◆平成25年度までに4回に分けてJ-VERを合計4,693t-CO2発行
(4,838t-CO2のうち、145t-CO2はバッファークレジット)

クレジット発行表

No.	クレジット 認証番号	算定吸収量	うちバッファークレジット (3%)	発行クレジット量	クレジット認証日	クレジット発効日	モニタリング期間
1	0064001	2,333	69	2,264	H23.5.31	H24.10.22	H20/04－H23/02
2	0064002	1,100	33	1,067	H24.6.19	H24.10.22	H23/03－H24/02
3	0064003	1,082	32	1,050	H25.5.14	H25.11.25	H24/03－H24/12
4	0064004	323	9	314	H25.9.30	H25.11.25	H25/01－H25/03
	※全体量に 対する調整		2	-2			
	合計	4,838	145	4,693			



J-VER発行について

◆4,693t-CO₂の発行にかかった金額は合計6,069,761円

うち、町負担は3,771,836円

クレジット発行費用

番号	年度	委託業務名	委託料	備考
1	22	森林J-VERプロジェクト計画妥当性確認業務	586,950円	国からの補助金使用 (町は負担なし)
2	22	森林J-VERモニタリング報告書検証業務	765,975円	国からの補助金使用 (町は負担なし) 2,333t分
3	22	森林J-VERモニタリング調査業務	2,205,000円	
4	22	森林J-VER制度取得に係るモニタリング調査 業務 (モニタリングプロット調査)	945,000円	国からの補助金使用 (町は負担なし)
5	23	森林J-VERモニタリング調査(プロット調査)	21,761円	毎木調査2名×9時間
6	23	森林J-VERモニタリング報告書検証業務	609,525円	1,100 t 分
7	24	森林J-VERモニタリング報告書検証業務	609,525円	1,082 t 分
8	25	森林J-VERモニタリング報告書検証業務	326,025円	323 t 分
合計			6,069,761円	左記のうち2,297,925円については補助金 左記のうち3,771,836円については町負担

※上記表に人件費は含んでおりません。



J-VERの販売について—①販売方法

◆ 仲介業者や北海道を通しての販売が主

- ・一部の仲介業者へ販売手数料の支払いを行っていた(販売金額の20%)

◆ ふるさと納税返礼品として出品

- ・令和5年3月から出品を行った。価格は35,000円
- ・令和6年9月末までに3件の申し込みがあり、合計4t-CO2を販売

◆ 東京証券取引所のカーボン・クレジット市場へ参加(道内初)

- ・試験的に販売していたが、売買成立の実績なし

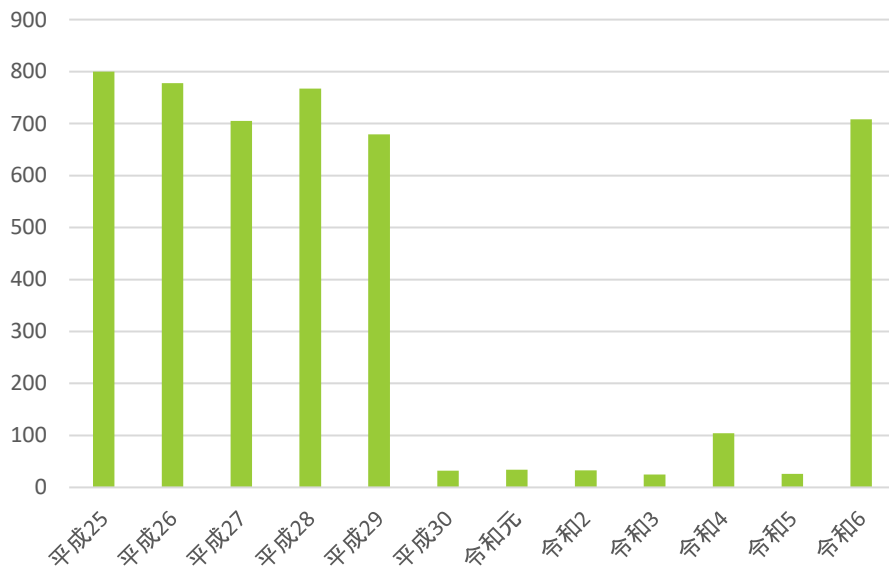


J-VERの販売について—②販売推移

◆ 令和7年2月に全てのJ-VERを完売

◆ 販売開始から約12年かけて4,693t-CO₂を販売した

クレジット販売量推移



クレジット販売実績 (R7.2.1時点)

年度	購入団体数	クレジット量	販売金額	販売手数料	クレジット残量
平成25	7	800	4,338,598	862,051	3,893
平成26	12	778	3,774,330	713,610	3,115
平成27	9	705	2,610,360	66,960	2,410
平成28	8	767	2,350,728	66,960	1,643
平成29	9	679	2,318,760	66,960	964
平成30	6	32	376,920	73,440	932
令和元	7	34	403,800	74,160	898
令和2	8	33	396,000	72,600	865
令和3	7	25	313,500	58,300	840
令和4	15	104	1,144,000	68,200	736
令和5	8	26	286,000	22,000	710
令和6	5	710	6,270,000	15,400	0
合計	101	4,693	24,582,996	2,160,641	



J-VERの販売について—③収支

◆完売までの収支として、

- ・販売金額の合計は24,582,996円
- ・その他費用を差し引いて18,650,519円が純利益に

収支内訳

区分	金額名	金額(円)
収入	販売金額	24,582,996
支出	販売手数料	2,160,641
	発行費用	3,771,836
差	引	18,650,519



苦労したこと

◆ 創出(当時の担当者談)

- ・現地での測量がとにかく大変。50箇所以上の町有林を調査
- ・町有林で暗くなるまで調査を行い、その後庁舎に戻り、日常業務を行う生活が2か月程度続いた

◆ 販売

- ・森林J-VERは価格が高く、なかなか売れない。販売には工夫が必要
→本町では販売開始から完売までに、約12年かかった
(この間、異動により担当者変更も複数あった)
- ・利益は当初の想定より少ない
- ・販売による一定の事務作業量
(多く売れても、1tでも作業量自体は変わらない)





J-VER創出で得た課題

◆ 創出して完売できたが...

→ 担当者も代わり、創出も学び直す必要がある。
販売のノウハウがないため能動的に動けていない。

【専門性】

◆ 収支は黒字だが...

→ とにかく作業量、事務量の負担が大きい

【負担量】

◆ 企業はJ-VERを購入してくれたが...

→ 一時的な関係性で終わってしまうことが多い

【継続性】



森林クレジット 2週目の創出へ

- ◆当初津別町では改めてJ-クレジットを創出する予定はなかった。
(平成30～令和5年度の販売実績から、あと10年は売れ残ると思っていた)
- ◆令和6年度にJ-VERが完売。その後も欲しいという企業が続く。
→ 創出には【**専門性**】【**負担量**】【**継続性**】の課題があり、
新しいクレジットの創出には二の足を踏んでいた。



森林クレジット 2週目の創出へ

◆その後、創出代行を行う複数の企業からお誘いがあった。

◆創出代行の内容は

- ・申請や創出手続、販売先の開拓まで行ってくれる 【専門性○】
- ・書類作成、販売までの事務手続きも行ってくれる 【負担量○】
- ・クレジットの販売＋自治体PRで企業との関係構築 【継続性○】
- ・全量買取、費用負担なし 【経済性○】

→ 創出代行企業に依頼して創出する方針となった。



森林クレジット 2週目の創出へ

◆各企業へ試算や見積りを依頼したが・・・

- ・結果がバラバラであり、何が正しいか判断できない。
 - ・全量買取はどの企業も同一だが、買取までの方法や計算式が違う。そのため価格だけで決められない。
- 各企業から直接提案を受けるプロポーザル方式により創出代行企業を決めることとなった。



森林クレジット 2週目の創出へ

◆プロポーザル方式による津別町の方針

- ・クレジットの単純な売り上げも重要だが、クレジットを活用して+ α を生むことの方が重要
 - ・クレジットを活用した企業との連携や町のPR・ブランディングにつながることを重視。
- 採点では上記2つを重視し配点を多くした。
そのため価格だけの提案にならないよう工夫した。



現在～今後の予定

- ◆クレジット創出・販売代行は、プロポーザルにより株式会社ステラグリーンに委託することを決定。連携協定を結び、現在プロジェクト登録を進めています。
- ◆創出対象は津別町有林全域である約1395ha。
- ◆協定期間である8年間の間で約30,000t-CO₂のクレジットの創出を見込んでおり、早ければ令和8年の冬ごろから創出が開始される予定です。





現在～今後の予定

- ◆ 森林クレジット以外では、再エネクレジットの創出に挑戦中
- ◆ 下記の公共施設のCO₂削減分を創出する。
(化石燃料(LPG)→木質バイオマス燃料に代替分)
- ◆ 令和5年2月にプロジェクト登録済み、令和8年中に第1回の創出



木材工芸館 キノス
チップボイラー 150kW
R5.3.17稼働開始

複合商業施設 ウッドリーム
チップボイラー 180kW
R5.9.1稼働開始

役場庁舎
ペレットボイラー 232kW
R3.5.6稼働開始





さいごに(まとめ)

- ◆ 本町では、4,693t-CO₂のJ-VERを創出
- ◆ H25から販売を開始し、完売したR7までに約12年かかった
- ◆ 発行費用は総額3,771,836円(町負担)、純利益は18,650,519円
- ◆ 利益は町有林の管理費用へ充当
- ◆ 独自で創出・販売するにはそれなりの労力・知識が必要
- ◆ 本町では結果として利益も出たが、販売の不確実性がある



さいごに(まとめ)

- ◆各創出代行企業の提案は似ているようで違う
価格だけではなく、+ α も含めて検討した方がよい
- ◆クレジットは活用方法次第で色々なメリットが生まれる
 - ・森林の管理費等の財源確保のほか、町や環境活動へのPRに繋がる
 - ・クレジット購入企業とのつながりができる



ご清聴ありがとうございました

津別町役場新庁舎（R3.3月完成）

木材使用量は282m³で、そのうち町内産が約88%を占めます。その多くが町有林から切り出されたカラマツ・トドマツです。

R5年3月30日 HOKKAIDO WOOD BUILDING登録。

